

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201042		
法人名	有限会社 かけはし		
事業所名	グループホーム かけはし		
所在地	福岡市西区愛宕南2丁目13-23		
自己評価作成日	平成23年3月25日	評価結果確定日	平成23年6月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年4月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、朝・昼・夕と3度の食事作りをします。リビングの並びにあるキッチンで職員と入居者で準備するため、食材を切る音や料理の匂いが入居者に直接五感に届き、食事準備を入居者様と一緒にすることで役割分担や責任感が育っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地に位置する利便性の高い周辺環境を活かし、近隣のコンビニエンスストアや商店の日常的な利用、また、希望により個別の外食や博多どんたく等の伝統行事に出掛けることもあり、個々人に応じた活性化への支援が行われている。地域の行事や活動へ参加する機会も増えてきており、入居者とともに地域防災訓練等にも参加しながら、近隣住民との顔馴染みの関係作りの機会としても活用している。日々の暮らしは、「自由に選択し、自由に生きる」という理念のもと、それぞれの方の生活質やその人らしさの把握に努め、自己決定や自己表現の機会を大切に捉えながら、何気ない日常生活を支援している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由に選択し、自由に生きる」自分らしさを尊重し自分のペースで安心して暮らしていただいている。	独自の理念として「自由に選択し、自由に生きる」を掲げ、カンファレンス等において、日々の支援を確認している。自己決定や自己表現できる場面を大切に支援に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域、校区内の行事に参加して顔見知りになることに努めている。	地域行事や町内の防災訓練に入居者とともに参加し、顔馴染みの関係作りを行っている。日常的に近所の和菓子店やコンビニエンスストアを利用したり、定期的に書道の先生がボランティアとして来訪している。派出所、警察署との連携を蜜にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議などを利用して、認知症の理解と支援をその都度お願いしている。無断外出で名札を付けた入居者を連れて来てもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員さんや自治会の役員さんなど幅広い参加をしてもらい、情報をいただき協力を得ている。	隣接する和菓子店喫茶部で開催されることもある運営推進会議は、家族、地域役員、市職員、包括支援センター職員等の参加にて定期開催されている。また、入居者もその時々に応じて参加している。防災や防犯等の連携も含め、地域との交流窓口としての機能を持っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったり、疑問に思ったりしたらすぐ地域包括センターに連絡を取り助けていただくようにしている。	運営推進会議には、福岡市職員、地域包括支援センター職員の参加を得ている。不明な点や相談、困難事例等の対応にて、助言を得ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回、身体拘束廃止会議を行い、皮膚疾患でかかないために拘束服着用の方の審議をしている。ほとんど形だけでしていないと同じである。	毎月、身体拘束の解除に向けた話し合いを行い、毎日、状況の確認を行っている。日中は施錠しておらず、地域住民や派出所等との顔馴染みの関係作りにも取り組みながら、職員の見守りにて対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体の変化は「気づきノート」や「ひやりハット」に記入し虐待が見過ごされることはない。ことばの暴力にも気づきやすい注意をうながしている。		

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年2回、福岡弁護士会の講演会に参加すると共に、施設内のカンファレンスで職員に伝え、マニュアルやパンフレットもいただいた物はファイルし皆で見れるようにしている。	福岡県弁護士会の主催する講演会に参加し、職員への伝達を行ったり、資料を整備し、閲覧できるようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけてひとつひとつ不安を取り除く対応、説明を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談の用紙があるので書き込んでもらったり、直接相談されたことは機会あるごとに経営者に伝えて反映させている。	家族の面会時等に、率直な意見をいただくことが多い。出された意見や要望については、職員間で共有し、日々の支援や介護計画への反映に努めている。入居者もカンファレンスで発言する機会がある。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱を用意し、どんどん職員の意見を言ってもらおうようにしている。カンファレンス会議でも意見を発言できる場を設け反映させている。	職員意見箱が設置されている。毎月のカンファレンスでは、職員の積極的な発言があり、協議しながら、反映に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給はすべての人同類であり公平をはかっている。本人の希望の休日をとれるように配慮し職場環境を働きやすいようにもっている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集や採用にあたっては性別、年齢など全く気にすることなく、“やる気・元気”を主に考慮している。慣れるまでは先輩職員の手伝いのもとで生き生きと勤務できるように配慮している。	採用にあたっては、やる気や人間性を重視しており、年齢や性別等による排除は行っていない。現在、在日フィリピン人スタッフも勤務しており、日々の業務や行事等において、能力を発揮している。	毎月のカンファレンスにおいて勉強会を実施されているが、全体的に、職員のスキルアップやモチベーションの確保に向けた取り組みはあまり確認できなかった。職員の主体的な関わりも含め、今後の環境整備に期待します。
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回の施設内カンファレンスの会議前に、テーマとして人権教育や啓発活動等をおり混ぜて話している。	毎月開催されているカンファレンスでは、人権尊重をテーマの中心として捉えている。外部研修への参加、及び伝達研修が行われている。	

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフトの関係上研修参加が困難であるが、受けた人が仕事しながらの実践で教え指導している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区の交流会に昨年出席し、大変勉強になったので、機会を増やしたい。いつも電話の向こうで顔を見ることができない人の顔が見えた。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なかなか本人様に理解してもらうことは難しいが、今困っていることから解放してやることで不安を減少させ何度も時間をかけて接していく。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と密に連絡を取り、コミュニケーションを取ることで絆を深めていく。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望や意向を時間をかけてじっくりと聞く。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	こちら側も希望や意向を入居者様にしっかり伝える。無理強いすることなくできることからやっていただく。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や外出・外食などたまには外に連れ出して気分転換をはかっていただく。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んできた場所に時々訪れてみる。	以前住んでいた場所を訪れたり、馴染みの美容室を利用したり、関係性の深い方の話をしたりと、これまでの暮らしの関係性の継続に向けた支援を行っている。	

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	仲間に入り、人と交わることが苦手な人もい るので、強制しないでひとりひとり対応して いる。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからアプローチすることはあまりない が、退去された方がコンタクトを取ってきた 場合はその機会を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	集団生活なので、十分希望をきいてあげる ことは困難であるが、意向に添えるように努 力はしている。	日常の何気ない会話の中から、入居者の思 いや意向の把握に努めている。アセスメント 情報として、生活歴や趣味、楽しみごと、特 技等を共有し、現在、「気づきノート」による情 報収集、及び新たな視点の確保に取り組ん でいる。	現状としては「気づきノート」への記載 が一部の職員のみとなっている。各職 員の持つ情報や視点を共有しなが ら、本人本位の検討、支援につなげて 欲しい。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	フェイスシートを必ず前の関係者よりいた だくことにし、ご本人様からも詳しく経過を合 わせて聞くことにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	ひとりの時間も大切にしながら、なるべく自室 から出てリビングで皆と過ごすように声かけ している。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	十分時間をかけて計画作成にあたっての情 報収集をし、職員とも話し合いを重ねてい る。	趣味活動や役割についても示された、個別 性ある介護計画が丁寧に作成されている。 3ヵ月毎のモニタリングや、状況の変化に応じ た見直しが行われている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子での変化が少しでもある場合、” 気づきノート”という形にして変化を記してい る。		

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り希望に添えるようにニーズに対応しているが、わからない時は地域包括センターに相談したりで対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域校区内の町内会役員さんや民生委員さんのお力を借りて、夏祭りの参加や公民館のもの作り参加で施設でも実習。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科、皮膚科、総合病院とかかりつけ医との連携で医療受診を行っているが、最近病院から「認知症の人は入院させられない」と言われて断られている。	建物の1階には、母体となる医院があり、連携が図られている。希望や必要に応じた医療機関への受診にも、柔軟に対応している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しでも様子がおかしい入居者様には各自「気づきノート」を記し、正確な形でケア会議をその都度行う。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他の入居者の受信時に入院者の様子を見に行き、担当者に様子を聞くが、家族でないと詳細には教えてもらえない。常に顔を出して顔見知りになっておく。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時契約書を交わす場面で終末期のあり方の話し合いを行う。看取りまでできるように取り組む。	入居契約時に、重度化や終末期に向けた指針を示し、同意を得ている。状況の変化に応じて、家族や医師との話し合いを行い、方針の共有に努めている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の災害訓練時に救急の手当でも講習していただく。カンファレンス時(月1回)に確認研修する。		

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防法で災害訓練を行っている。全職員が集まる日に設定して全職員が参加し身につくようにしている。	年2回、入居者の参加する避難訓練を実施している。地域の防災訓練には入居者の方々とともに参加し、運営推進会議では地域との連携について働きかけが行われている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩ということで、人格尊重と言葉遣いには注意しているが、家庭的な雰囲気の中で時々愛称で呼ぶこともある。	個別の時間の流れや生活習慣を大切にしている。馴れ合いの対応や声かけとならないよう、職員間で注意合っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全く意思表示ができない人を除いてはご本人様に答えを出していただき強要、強制することはないようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	季節の行事以外は一日のスケジュールを細かく決めることはなく自分のペースで過ごしていただいている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る物は、ほぼ自分で決定、様子がおかしい方のみアドバイスを試みる。外の美容室、散髪にお連れすることもある。毎月第四木曜日に訪問美容室がくる。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の仕事として食器の用意をしてくれたり調理の下準備をしてくれたりと女性入居者が率先してくれる。	2、3階のユニットごとに、毎日の献立が異なる。買い物から入居者とともに、配膳や引き膳にも個々に応じた力を発揮してもらっている。近隣のラーメン店等、個別の外食に出かけることもある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病方や透析治療をしている人は厳しく栄養バランス、カロリー、水分量を計算するが、それ以外の方はほぼ自由に摂取していただいている。		

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全介助の方以外は、洗面所に行く事を声かけし、全介助の方はテーブルで歯ブラシとコップを持ってきて行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけをして、トイレ誘導を行っている。夜間トイレまで遠くて行けない人は部屋内にポータブルトイレを設置している。	個別の習慣やパターンを把握し、さりげない声掛けや誘導に努めている。排泄に関する外部研修に参加し、伝達が行われている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を定期的に補充し、繊維質の食材を用いるようにし、食後には散歩も励行している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴表は作成しているが、希望やタイミングもあるので随時入浴が行えるように対応している。	毎日、入浴準備を行い、柔軟な対応に努めている。無理強いとならないよう支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜遅くまでテレビを観たい人もいるので、リビングで一緒に観たり、早く寝たい人には自室に戻ってテレビを観ることもある。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に看護師さんが薬の管理確認をしてくれ、職員も用法を理解し、毎食前後ひとりひとりの手にのせて内服確認。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やる気のある方は役割分担・自分の仕事としてゴミ出し、買い物補助掃除機かけ、茶碗拭き、食事準備などしてくれている。責任もってやってくれる。		

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>基本的にはその日の日勤者が本人様の希望で散歩や買い物と言われた時、一緒に付き添う。</p> <p>5月にヤフードームの野球観戦は休みの職員も応援にかけつけてくれる。</p>	<p>近隣のコンビニエンスストアへの買い物や散歩、また、地域行事への参加の機会も増えてきている。運営者自ら、個別の外食に共に出かけることもある。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物希望をするときはなるべくその日に行くようにし、財布とお金をもち自分で支払うようにし、側に付き添う。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人が電話希望した時は、ダイヤルプッシュし相手の方が出るまで支援する。手紙の方は要望することはまだなし。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関の回りに季節の花が咲き、居間には観葉植物が飾られている。壁に写真や書道の作品が貼られ、ギャラリーのようになっている。</p>	<p>4階建ての医院の2、3階部分を改修して運営されており、中央のテラスにはプランターやベンチが置かれている。食卓やソファを設置し、それぞれの方にとっての、くつろぎの場所を確保している。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>3Fのベランダにはベンチを設置。日なたぼっこができるようになってたり、2Fのリビングには2人用、3人用のソファを置き気のあった者同士で座れるようになっている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ひと部屋ひと部屋が大きく設定しているので、居間まで自分のいた家、部屋を再現できるくらい、使い慣れたものを持ち込めるようになっている。</p>	<p>畳敷きの居室や、洗面台やトイレが設置されている居室もあり、様々な設定がある。嫁入り道具である桐の筆筒や仏壇等、大切な物の持ち込み、また生活に必要な様々な品々が置かれており、生活感ある居室となっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>浴室、トイレ等名札を付け、場所がわかりやすくしている。各自のテーブルにも名前をつけて席がわかるようにし、各部屋の扉にも表札を付けている。</p>		